

☆惜しい！ポーズ写真たち☆ 本当にあった例



Good ポイント！

全体：無地の背景と適度な照明が人物に陰影を作りポーズを引き立てている。真横から水平に撮影され写真の中心に身体が来ているため、美しいアラベスクラインを見ることができる。

上半身：自然に伸びた腕のラインと目線が同じ方向を見ている。首や肩に力が入らず、あごのラインも美しい。後ろの腕は脚のラインにかからないように。

下半身：膝裏、つま先まで、しっかり伸ばす。両脚（特に軸足）のターンアウトは決して緩まない。



ここが惜しい

美しく合格ラインだが、背景が無地のものと比べると、やはり見劣りがして勿体ない。バーの前で撮る時は床と壁のつなぎ目やバーがフレームの長辺と水平になるようカメラを設置する。



ここが惜しい

カメラの傾斜は絶対にNG。水平に撮影するには、床と壁のつなぎ目がフレームの長辺と水平になるようにカメラを設置する。

後から傾斜の修正をすることもできるが、それにより被写体が斜めになってしまう場合は撮り直し。



ここが惜しい

脚を長く見せようと下から撮ってしまった例。撮影は三脚を使用してレンズの高さを被写体に合わせる。



ここが惜しい

アラベスクは真横から撮影する。被写体の腰が横の壁に向かってるのが正しい位置。



ここが惜しい

被写体より背の高い人が手持ちで撮影してしまった例。撮影は三脚を使用してレンズの高さを被写体に合わせる。